

# 山行報告



## ■兵庫労山主催 第51回六甲全山縦走大会

- 日 程：3月12日(日)
- 参 加 者：La 藤本 SLa 森本 赤木 尾越 河崎 土井  
Lb 山本(正一) SLb 須増 岡本 小山 山下(雅)  
福田(別行動)

- 行 動 記 録：須磨浦公園駅 6:15 発～鉢伏山(6:40 着)6:45 発～高倉台団地(7:10 着)～妙法寺(8:25 着)8:35 発～高取山(9:15 着)9:25 発～神鉄鴨越駅(10:05 着)～菊水山(11:10 着)11:15 発～鍋蓋山(12:10 着)～大竜寺(12:35 着)12:45 発～市ヶ原(13:00 着)13:05 発～摩耶山(14:40 着)14:55 発～記念碑台(16:15 着)～ガーデンテラス(16:45 着)16:50 発～一軒茶屋(17:30 着)17:40 発～船坂峠(18:35 着)～大谷乗越(19:15 着)19:20 発～塩尾寺広場ゴール(20:20 着)

### ◆◆六甲全山縦走完走をめざして

### 土井

3月12日、6時7分に須磨浦公園駅に電車が着いて、そこから受付へと向かいました。並ぶこともなくスムーズに受付を済ませることが出来ました。さあ、いよいよ六甲全山縦走本番のスタートです。「頑張って完走するぞ」という期待と「本当に無事ゴールまでたどりつけるだろうか」という不安が入り混ざっていました。最初は山、住宅地、山、住宅地と交互に続いていました。歩きやすいですが階段だらけで足にこたえます。

前半の山場は何と言っても菊水山、鍋蓋山、摩耶山の急な登りです。菊水山ではあの黒い階段が待ち構えています。「ほんとに何であんなに階段はしんどいんだろう？普段楽しんで全然階段使っていないってことだな」と、ちょっと反省です。鍋蓋山も何とか登って大竜寺のチェックポイントを12時35分ごろ無事通過しました。そこではジュースを頂いて一息つくことができました。

この全山縦走で一番きつかったのは摩耶山への登りです。それまでの登りで足がもうガクガクしているのに加え、摩耶山の登りもまたきつく、一段一段が大きくて自分の体を持



ち上げるのが大変でした。「なんでこんなしんどいことしているんだろう？」と、思いました。まあ、自分が申し込んだんですけど。。。。「これ以上行けばもう吐きそう～」と思った頃、やっと電波塔に着きました。そこでは、紅茶のサービスがありました。温かくて、ちょっと甘めの紅茶がすごくおいしかったです。その先の掬星台に着いた時、ほっとしてもう8割方達成した気分になりました。不思議なもので、おにぎ

りとおやつを食べ、水分を補給して体を休めると体力も気持ちも回復します。もうひと頑張りするぞ～！

記念碑台、ガーデンテラスを通過して一軒茶屋のチェックポイントまではアスファルトの道が続きます。このアスファルトをぐるっと周って行くのが案外疲れるし、時間もかかるのよねえと思っていると、ショートカットのコースを見つけてくださっていてその道を通りました。この素敵なショートカットコースのお陰で半縦トレの時より一軒茶屋まで短い時間で行けたと思います。17時30分に一軒茶屋のポイントを通過しました。ここからは、日も暮れて来ます。ヘッドランプを用意して後半へと出発です。

後半は前半のような険しい道はありません。なので、結構なスピードで進んで行きました。初めはそのスピードも結構楽しかったけれど、日が暮れてからはヘッドランプを点けていても足元が暗くてちょっとこわかったです。下ばかりに気を取られていたけど、ふと顔を上げると、月が出ていました。満月だったんでしょうか？まあいいお月さまでした。

そして、昼の山行では見ることはできない夜景が広がっていてとてもきれいでした。宝塚の夜景が見えてきたら塩尾寺が近いと教えてもらいました。「もうすぐ塩尾寺！そしてゴールだ！」実際は、暗すぎてそこが塩尾寺なのかなんなのかよくわからなかったです。

でも、もうあとちょっと。進んでいくとゴールが見えてきました。係の方が完走のハンコを押してくれて、完走証を渡してくれました。「やった！完走した」疲れた体に達成感が広がって行きました。あとは、がんばった体にご褒美のぜんざいです。疲れた体にはやっぱり甘いものもいいです。2杯頂きました。

最後に、六甲全山縦走をご一緒した皆様、疲れたけれど皆様と一緒に楽しい14時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

## ◆◆再々チャレンジの六甲全山縦走

## 山下(雅)

これまでに六甲全山縦走トレーニングは2回参加したことがあるが、いずれも掬星台までしか行けなくリタイアしていました。この大会に初めて参加して出来れば完走したいと思いつつ参加しました。

当日は始発電車で集合場所の須磨浦公園駅に向かい、揃ったところでスタート受付地点に向かった。受付を終えいよいよスタート。鉢伏山：旗振り山：鉄拐山を越え高倉台まで来た。

ここは、階段が続く所なので長い列ができていて遅れないように付いて行き、山頂で水分補給の小休止を取り次へと出発した。須磨アルプスの狭い山道を抜け妙法寺まで来た時に休憩になったので、少し足に張りがあるので念のためにスプレー(エアサロンプラス)をしてからスタートすることにした。

そして苦手な丸山市街地まで来た。ここは、縦走トレーニングの時に皆に付いていけず遅れる所なので、今日は離れないように付いて行こうと思い、前を見て歩いて行った。第1のポイントを抜け気分よく大竜寺に着く事が出来た。ここから掬星台までは、急な登りもあるが今まで行く事が出来たので問題なく登れた。ここから先は、逆コースでは来た事があるが、こちらからのコースは、初めてだったので少し不安もあり又苦手な



道路を歩く所があるので心配していたが、それほど長くなかったので皆に付いて行く事が出来、無事一軒茶屋まで遅れずに付いて行く事が出来た。ここからは急な下り坂が多くあたりも暗くなってきたので、電気を照らしながら滑らないよう気にしながら前の人 に付いてゴールを目指し無事完走する事が出来た。今回の山行でお世話になったリーダーや同行の皆さん長い1日お疲れ様でした。それにいろいろとお世話になり有難うございました。



## ■大岩岳(384.1m)読図山行

- 日 程：3月18日(土)
- 参加者：L 和田(サポート) : 佐々木 大野 乙坂 小山  
SL 野村(サポート) : 岡本 西川 平井(正)  
澤田(律)(サポート) : 松本 矢根 山本(正樹)

### ● 行動記録

(Aグループ逆回り)：駐車場(8:35着)9:10発～ポイント⑨(9:20着)9:22発～ポイント⑧(10:00着)10:08発～ポイント⑦(10:40着)10:45発～ポイント⑥(11:00着)～ポイント⑤(11:50着)11:52発～ポイント④(12:15着)12:40発～ポイント③(13:00着)13:10発～ポイント①(14:00着)～ポイント②～駐車場(14:20着)

(Bグループ)：駐車場9:35発～ポイント①(9:45着)～ポイント②(10:20着)～ポイント③(11:16着)11:55発～ポイント④(12:53着)～ポイント⑤(13:13着)～ポイント⑥(13:44着)～ポイント⑦(14:02着)～ポイント⑧(14:42着)～ポイント⑨(15:15着)～駐車場(15:25着)

(Cグループ)：駐車場(8:20着)9:30発～ポイント①(9:55着)～ポイント②(10:30着)～ポイント③(11:20着)12:00発～ポイント④(12:15着)12:20発～ポイント⑤(12:50着)～ポイント⑥(13:35着)～ポイント⑦(13:35着)13:40発～ポイント⑧(14:25着)～ポイント⑨(14:50着)～駐車場(15:00着)





## ◆◆大岩岳読図山行

山本(正樹)

今回の読図山行は、入会してから2回目です。前回は、たつの市の大倉山でした。大倉山は、目標地点がわかりやすく、初心者にはお勧めコースだと思います。

さて、今回は久しぶりにコンパスをとりだして、和田講師の座学で地形図の読み方、コンパスの使い方をしっかりと学んでから大岩岳に向かいました。現地で班は3班に分かれ、私は元学習会B班の仲間、松本さんと矢根さんと同じ班でした。そしてリーダーはベテランの澤田さん。なんの問題もなく9ヶ所のポイントを軽く回る予定でしたが、今回は地図に載っていない無数の沢に悩まされました。無数の沢や細かいピーク場所、地図に無い分岐点など、いかに地図上の情報と現在地のあらゆる情報(鉄塔やリボン等)を読み解くのが読図山行の醍醐味だと感じました。澤田さんからは、等高線についての説明と次のポイントまでのおよその距離を把握するために歩数と歩幅で感覚を身に着けた方がよいというアドバイスを受けました。

今回の読図山行中、同じような状況が至るところにあり迷ってしまいました。こういう時にGPSがあれば便利だと思います。確かに地図を広げていると「何の調査ですか？」と何人かの人にたずねられました。読図と言っても通用しません。GPSがあれば読図能力は必要ないのでしょうか？私はスマホにまだGPSを入れていません。GPSがなくても現在地を特定し、下山する能力は身につけておきたいものです。

最後になりましたが、講師の皆様ありがとうございました。いい勉強になりました。特に、澤田さんは最高です。そして一緒に行った皆様、お疲れさまでした。お互いにコンパスの使い方を忘れないように、山行では一度使いましょう。



### ■由布岳(1583m)女性委員会

- 山行日：3月18日(土)～20日(月)
- 参加者：L垣内 SL尾越 尾内 狩集 島谷 瀧原 開 村上  
(案内 大分労山) 長澤氏・加藤氏

- 行動記録：由布岳正面登山口 8:35 発～857m 地点(8:50 着)8:55 発～合野越(9:20 着)9:25 発～マタエ(10:50 着)10:55 発～西峰(11:20 着)11:50 発～西峰と東登山口分岐(13:05 着)13:10 発～東峰(13:30 着)13:35 発～マタエ(13:55 着)14:00 発～合野越し(14:45 着)14:55 発～由布岳正面登山口(15:25 着)

## ◆◆由布岳、8人そろってお鉢巡り

島谷

往復フェリー泊、「由布岳の西峰とお鉢めぐりで東峰まで」の弾丸ツアーでした。L、SLのおかげで安全山行、快適な船旅が出来て感謝しています。

土曜日夕方、阪神御影駅集合、バスで六甲アイランドフェリー乗り場へ向かいました。港は3連休初日でもとても混雑していました。乗船切符発券担当と乗船順番とり担当に分かれ、船ではプロムナードの8席を確保出来、リーダーの「ここまで予定通り」の一言で皆安堵の笑みで夕食のお弁当タイムとなりました。明石海峡大橋をくぐり、プライベートベッドでテレビをみて快適に過ごせました。翌日の朝食の船内レストランはトップに並び、

食券券売機前では「時間まで購入しないでください」とご注意をいただくくらいの余裕行動です。

大分港では、由布岳の案内をしてくださる大分労山の長澤様と加藤様が「高御位山遊会様」と書かれた紙をかかげて待っていてくださいました。お二人のおかげで、私達はこの後お鉢巡りまで出来ることとなります。登山口からみる由布岳はとても美しいかたちで、別名で豊後富士(ぶんごふじ)と呼ばれるのもうなずけます。東峰が手前に見え西峰は隠れており、間の鞍部がマタエということです。登山口辺りは野焼きされ、焦げた草を踏むのが心地よかったです。左手には、昔の噴火でできたご飯を盛ったような形のやはり美しい飯盛山(いいもりやま)があり、ここには飯盛城が築かれていたそうです。

合野越(ごうやごし)からマタエまではジグザグ道で20回以上方向転換の道です。ミヤマキリシマの芽がついており、5月下旬には花の色に染まるそうです。マタエは西峰と東峰の分岐点でもあり混雑していました。ここで、鎖場へは行かずに待っていますというメンバーもありましたが、「8名で頂上まで行こう」とL・S Lそして、長澤様・加藤様のご判断で頑張ることとなりました。間に運営委員さんに入ってもらい、「右手を先へ」「左足は横の岩へ」と適格な指示をうけながら「障子戸」と呼ばれる鎖場をクリアし、予定時刻に頂上三角点に「デン」できました。ここからは、お鉢巡りや対壁の東峰が見え、下りに時間がかかっている様子(動いているのかさえ分からないくらい)がわかりました。「出発2分前」の長澤様の声にも慣れ、ザックを背負い1列に並んで待つ余裕が、この時にはありました。

いざ、お鉢巡りに出発です。おそらく2日ほど前の雪なのでしょう、足元がぬかるみ低木やミヤマキリシマをつかみながら緊張の連続です。木にはかわいそうなことですが、こうしなければ進むことが出来ないくらいの角度の道です。お鉢の北面は、残雪が凍りつるつるです。さらに60度はありそのような岩場も多く、高すぎて脚が届かないメンバー



は、下からおしりや靴を押し上げてもらったり、ロープで引き揚げてもらったりしました。後ろ向きに岩を下る場面では、前の人から「右へ左へ。上体起こして」と指示を受けながらクリアしていきました。「これ、大普賢よりきつい」と弱音を吐くと、前の方からリーダーの「比じゃない」の声があり、気を引き締めなおして臨みました。

東峰にたどり着きお鉢を眺めると、このような危険な状況なのでやはり他の登山者もゆっくりした動きで、かわすために待つ人もあり、お鉢の岩場は混雑していました。途中「こわい」という気持ちが出て、体より精神が疲れてしまいました。指をひっかける、腕で上体を引き上げるといった岩の基本をしっかりと練習していたなら、「こわさ」よりも「きつと出来る」気持ちで臨めたと思います。長澤様と加藤様にご一緒していただいたおかげで8名がそろってお鉢巡りを達成でき感謝のかぎりです。これからの山歩きの中で「あの由布岳・・・」と私には大きな意味のある山行になったと思います。

フェリー乗船前に別府の温泉にも案内していただきました。船内レストランではやはりトップでバイキングを楽しみ、反省会では参考になるお話を聞けました。山もお肌もお腹も大満足な由布岳でした。



## ■善防山縦走

### 善防山から夕陽ヶ山へ“やぶ尾根”を歩く

- 山 行 日：3月19日(日)
- 参 加 者：L藤本 SL赤木 香川 木村 黒本 田中(重) 田中(由) 苦瓜 西口  
西脇 橋本(健) 増田 待場 三木(悦) 森下 山本(清) 山下(雅)
- 行 動 記 録：善防公民館(9:00 着)9:10 発～烏帽子岩登山口(9:15 着)～善防山(9:55 着)10:00 発  
～馬の背下コル(10:40 着)～夕陽ヶ山(12:10 着)12:50 発～白玉神社(新池・13:10 着)  
～古法華自然公園(ゴール)(13:30 着)

### ◆◆善防山から夕陽ヶ山へ“やぶ尾根”を歩く

橋本(健)

今日から甲子園では、選抜高校野球が開幕で春を実感するようになりました。

善防山には土曜トレで行ったことはあったが、今日は普段は行かないようなコースで楽しみに参加しました。

鶯やヒバリ…のさえずりを聞きながら、すがすがしい気分ストレッチを行いスタートしました。善防公民館近くの烏帽子岩登山道は、最近整備されたコースで2月26日(日)に登山教室が開かれたそうです。なかなかの急こう配でロープが設置されていましたが、花粉症のためマスクをしていたのでなおさら苦しい山歩きとなりました。

やっと辿り着いた烏帽子岩から加西の街の景色を眺めながら記念撮影を行いました。



その後、善防山に到着すると笠松山が右前方に見えました。どちらの山が高いかと議論になりましたが、地図を見ると笠松山(244.4m)、善防山(251m)で若干善防山が高いことで落ち着きました。

笠松山を右手に見ながら進むと、ワンワン牧場が左下に見えました。コース全体に岩山で高御位山と同じく大きな木が無いのでパノラマが楽しめました。左前方に鉄塔が見えていましたが、姫路セントラルパークの観覧車であることを教えて貰いました。

て貰いました。

馬の背の左のコースを進みましたが、アップダウンが多くやぶ漕ぎが始まりました。「今回の山行は、低山で年寄りでも歩けると思って参加したのに」とぼやいている方もおられました。

クモの巣が張るようになったり、マムシが出るような季節になったら、このコースには来れないと思いました。

突然、最後尾の赤木サブリーダーの「やったー」と云う大きな声が聞こえたので、転んだのかと思いきや、シャツの右手の部分が破れていました。山行計画に「破れない服装と書いてあったやろ！」と言われていました。破れない服装では無くて、破れてもよい服ではなかったのか。

夕陽ヶ山で昼食を摂り、下山を始めましたが急こう配で滑りやすいので注意するように指示がありました。先頭グループの女性に置いてきぼりをくらいながら、どうにか下ることが出来ました。山頂を見上げるとよく怪我もせず降りてこられたと思いました。

山行開始前に、キャンプ場に配備した車に乗せて頂いて公民館へと戻りました。

藤本リーダー、赤木サブリーダー、お世話頂いた方々、有難う御座いました。

## 2017/3/19 善防山縦走反省会

- 赤木 服が破れました。  
香川 岩を登るとき腐った木をつかんで倒れた。何でもつかんだらダメ。  
木村 楽だと思っていたが、しんどかった。  
黒本 最後の下りで転び方と滑り方のトレーニング。楽しかった。  
苦瓜 烏帽子岩は怖かった。変化にとんだルートだった。  
西口 善防山は低山だと思って軽い気持ちで参加したが、中々ハードな山行でした。  
西脇 自分の庭のような山だが、こんなところもあったんや。  
橋本(健) 土曜トレに参加したことがあるが、”やぶ”の新しい道は楽しかった。  
増田 年2回くらいやさしい山行に参加している。高さで選んだが下りが怖かった。  
待場 久しぶりの善防山。初めてのルートだったけど事前に衣服の注意があり助かった。  
三木(悦) 善防の新ルートを歩いてよかった。  
森下 普段より長くて疲れた。  
山本(清) 土曜トレとは違うルート。また善防に来てほしい。  
山下(雅) 加西は初めて。高さの割に急なところがある。



### ■七種山(683m) 福崎町

- 山行日：3月20日(月・祝)
- 参加者：La 和田 SLa 佐々木 赤木 大野 森下 藤田 大谷  
Lb 竹内 SLb 山本(正一) 木下 苦瓜 田中(美) 谷口 河合  
Lc 砂川(延) SLc 上田 兼本 矢根 山本(清)

- 行動記録：野外活動センター(8:25着)8:45発～尾根出会い(9:23着)～393.2三角点(A班) (10:00着)～七種槍(11:25着)11:45発～小滝林道駐車場(12:35着)12:40発～七種山(14:05着)14:10発～七種滝・七種神社(14:50着)～鳥居前駐車場～野外活動センター(15:50着)
- (B班) 野外活動センター(8:25着)8:45発～尾根出会い(9:22着)9:30発～393.2三角点(10:00着)～七種槍(11:25着)11:50発～小滝林道駐車場(12:40着)12:47発～七種山(13:45着)14:15発～七種滝・七種神社～鳥居前駐車場(15:10着)～野外活動センター(15:47着)
- (C班) 野外活動センター(8:25着)8:45発～尾根出会い(9:25着)～393.2三角点(10:00着)～七種槍(11:25着)11:50発～小滝林道駐車場(12:45着)13:00発～七種山(13:55着)14:15発～七種滝・七種神社(14:55着)15:05発～鳥居前駐車場(15:25着)～野外活動センター(16:00着)

### ◆◆七種槍と七種山

### 木下

歩き応えのある山行だった。七種山登山というよりも「七種槍と七種山」登山と言ったほうが適切だと思う。それほどに七種槍の存在は大きく感じたし、七種山山頂下にある「のぞき岩」から見る七種槍は周囲の山嶺を従え毅然としていた。





青少年野外活動センター前の駐車場で19名が集合、リーダーの和田さんから2013年に岩場で滑落した人が死亡する事故があったので、十分に注意して歩くようにとの話があった。8時50分、A・B・Cの3班に分かれて、七種槍を経て七種山、七種滝、七種神社を通りセンターまで下るコースをスタートする。健脚向きのコースだ。少しもやがかかった感じで遠くの山がかすんで見えたが、この時期にしては申し分のない穏やかな天気だった。

登りはじめから急登がつづく。30分ほど樹林帯を登ったところで最初のピークに着きここで小休止。

ここから尾根ぞいを577.3mの七種槍めざして歩く。岩場がところどころにありアップダウンを繰り返す。この岩場の両側は急な傾斜となっていて慎重

に足を進める。特に下りは十分な注意が必要だ。樹木の切れたところから振り返ると青少年野外活動センターがよく見える。いくつかのピークを越え、登りはじめてから2時間30分ほどで標高577.3mの七種槍に到着しここで昼食をとる。七種山は遠くに見える。

七種山をめざして出発。430mのピークを過ぎてすこしすると道が二つに分かれ、道標があり、まっすぐは七種山、左(西)側は小滝林道とある。予定どおり小滝林道へ向かう道を下り谷筋にある林道終点に12時45分に着く。ここからまた急な登りがはじまり、A班の1名が歩けなくなってしまう。B班、C班は先に進み、13時45分頃山頂に到着した。頂上からの展望はあまりよくなかったが、「のぞき岩」から見る北側の景色は視界が開け、遠くに白く雪をかぶった峰山も望まれた。しばらくしてA班が山頂に到着すると、待っていたメンバーから拍手が起こった。赤木さん、2人分のリュックを担ぎご苦労さまでした。また山頂では1人で登っていた女性と高御位山遊会のメンバーとの会話をきっかけに、その女性が高御位山遊会に入会するというハプニング?があった。

七種山山頂から七種の滝とその横に建つ七種神社まで約40分で一気に下る。七種の滝は水量が少なかった。ここから少し下ると太鼓橋があり、途中、古い山門をみながら舗装された道をひたすら歩き15時45分、出発地点の青少年野外活動センターに到着した。皆さん、お疲れ様でした。



## ■生駒山(642m)大阪から奈良への山越えを歩く

- 山 行 日 : 3月26日(日)
- 参 加 者 : La 瀧原 SLa 垣内 有本 川上 田中(美) 苦瓜 廣岡 安田  
Lb 三木(悦) SLb 尾内 大谷 乙坂 島谷 土井 矢根

- 行 動 記 録 : 近鉄枚岡駅(9:20着)9:24発~枚岡神社(9:30着)9:35発~神津嶽 10:25発~大原山(11:15着)11:55発~暗峠(12:07着)12:20発~山上展望台(12:44着)12:48発~生駒山三角点(13:10着)13:15発~宝山寺(13:46着)14:00発~近鉄生駒駅 14:30(着)



## ◆◆「生駒山 大阪から奈良への山越えを歩く」に参加して 安田

今回、この3月に入会して初めての山行に参加しました。膝を痛めて半年以上、水が溜まったり、引いたり、その繰り返しで、中々、近くの山へ行くのにも気をもんでいました。この度の生駒山行きには、1週間前から、日常生活でもあまり無理をせず、湿布を毎日交換し、万全を期して臨みました。その甲斐あって帰宅しても痛みも出ず、ラッキー！！

天候は前日より雨が午後より降るかも…の予想であったりしましたが、結果、当日は帰宅の電車に乗るまでは、雨は持ってくれたので良かったです。ワンディパスポートのチケットを買い山陽電車に乗り全員で生駒山へ向かいました。近鉄枚岡駅より、まずは大原山へ向かいます。本当に、駅から直ぐに登山コースに入れるのにはビックリです。改札口を出ると、すぐに神社に入り、準備体操をすると、そのまま登りになります。このコースはトイレも充実しているのも、とても安心して登れるコースでした。

枚岡神社を出発し、ゆったりとした登山道を行きます。やはり日曜日とあって、沢山の方とすれ違ったり追い抜かされたりしました。私はリーダーのすぐ後ろについて登りましたが、今回はリーダーのゆったりとした歩行で全く疲れることなく全コースを終えることができました。

昼食は展望の開けた広場で摂り、元気が出たところで生駒山頂へ向かいました。暗峠という所を通過するのですが、ここは中々の有名な地所のように、沢山の有名芸能人が訪れた所です。歴史の趣ある所で今回、初めて知ったのでした。

生駒山の頂上の三角点を遊園地の中で見つけ、下山します。これがまた、階段が延々と続くのでした。

下山途中の宝山寺で参拝と休憩をしました。宝山寺は初めて知りましたが大きなお寺で大きな岩はだを背景に本堂がたっており、広い境内で沢山の参拝客がいました。自宅に帰って調べてみますと、この寺は生駒聖天様と崇められて、気運の上昇、金運上昇、商売繁盛、縁結びと有名だそう。大変、ご利益があるとのことで人気があるとか。帰りの売店で、胃腸薬でよく効くという薬を数名の方が購入され、皆さん、よく知っているのだなと感心しました。

長い階段を延々と下り、やっと近鉄生駒駅に到着します。朝の行きの電車の中で「和菓子」の話があって、寄って買いたい店に寄ると言う話になっていたのも、途中下車をして、全員、希望の和菓子を手にすることとなりました。山行の終わりは、食べ物で締めくくりました。

今回、初めて参加させて頂きましたが、私の感じた事は「仲間意識」が強くてことでした。初めて今日、逢ったばかりの皆さん、すぐに打ち解けます。私は今まで山登りは旅行会社によるツアーに参加することでしたが、このように全員が打ち解けて誰とでも話できません。せいぜいバスで横に一緒になった方だけだった気がします。

皆さん、これからも宜しくお願いします。この度は有難うございました。





## ■高御位山縦走 高森ボランティア整備道(新豆崎登山口)から歩く

- 山 行 日：4月1日(土)
- 参 加 者：L赤木 SL山本(正一) 尾越 狩集 澤田(律) 田中(重) 土井 開 藤本 待場 森下
- 行 動 記 録：J R 曾根駅 8:40 発～豆崎(新登山口) (8:50 着)～地徳山(9:40 着)9:45 発～鷹ノ 巣山(10:40 着)10:45 発～高御位山(11:30 着)11:50 発～北山奥山(12:40 着) 12:45 発～分岐(13:00 着)～辻登山口(13:30 着)～J R 宝殿駅(14:00 着)

### ◆◆道しるべ(道標)

### 赤木

曾根駅から豆崎新登山口に向かう、きのうの冷たく激しい雨で天気は危ぶまれたが、「晴れ女」土井さんという強い味方のおかげで天気は少し曇ってはいるが大丈夫だ。

歩道橋で2号線をわたり新登山口に、新しい道標を皆で確認した。あまりに立派なので皆が称賛の声をあげていた。内海さんのこだわりが冴える、天頂の銅版の表面処理(硫黄を燃やし硫化水素ガスの危険を冒して)土台の防水処理(シリコン)板の厚み、文字の鮮やかさ。



その字が指し示す高御位山へ、出発だ。新道はすこし急だが問題ない、旧豆崎への分岐、中所への分岐を経て地徳山に、ここでストレッチ、あまりに立派な標識を見たので他の標識に目がいってしまう。高御位の標識はほとんどが消えかかっている、板が指し示す方向とかすかに見える高御位等の地名である程度役に立っているがデータ(時間、距離)等はほとんど判らない。

百間岩の標は白いペンキの矢印と丸印が岩に書いてあるが正確とは言い難い、上りと下りでは足運びが違って来るし、ここでは踏み跡が重要な標になる、先の先まで瞬時に判断し凹凸や割れ目をうまく辿るルートファインディングの能力が安全登山の要素になってくる。

桶居山分岐の標識は判りやすく的確だ、高御位山の頂上の手前の岩棚状の所にケルンが1基ある、高御位山ではここだけかもしれないがこれも立派な標の1つだ。「かえる岩」の標識を過ぎるとすぐ頂上。「晴れ女」の威力は絶大で空は晴れ渡り風が快い、昼食を摂っていると寒いぐらいだ。

矢印が指し示す北山奥山へ、岩場をどんどん下りていく、どこことなく甘い香りが漂い藪では鶯がしきりに啼く。コルの樹林では木にテープを巻いて標にしている、「なため」もあった。これらの標識はここを訪れた人々が安全に目的地に着き、下山できるようにと人を思いやる心で設置されたのだ。

分岐の消えかけた道しるべに導かれ、全員無事つつじの咲き始めた道を辻に着くことが出来た。

### なため(鋭目)

### (明大ワングル部歌)

森深く迷いたどれば 古きなためはみ導きぬ  
ひとの心のしみじみと 懐かしうれし  
小暗き径に



## ■加東神山(648m)加東市の最高峰に登る

- 山行日：4月9日(日)
- 参加者：La 藤本 SLa 赤木 阿江 狩集 時井 開 増田  
Lb 澤田(律) SLb 藤原 木畑 田中(美) 西脇 舛賀  
Lc 野村 SLc 森本 内海 森下 矢根 山本(清)  
Ld 瀧原 SLd 西口 木下 小山 島谷 吉村

- 行動記録：やしろ鴨川の郷9:25発～展望台(9:45着)9:50発～上り下り分岐点(10:55着)  
～加東神山(12:15着)12:35発～上り下り分岐点(13:45着)～やしろ鴨川の郷  
(14:30着)

### ◆◆加東神山登山に参加して



### 木畑

前日からの曇り模様の天気、雨が降らないことを祈りながら集合場所の鴨川の郷公園に着くと、公園では地元の<桜まつり>会場の準備が行われていました。車で現地集合でしたので駐車場の確保が大変でした。登山口の臨時駐車場でOKの許可を頂き一安心。

25名全員曇り空の下、天気を気にしながら出発、途中やや急な九十九折の道を歩いて展望台までできました。眼下には桜満開の鴨川の郷公園が見えました。前日からの雨で足元は滑りやすく中々前へ進めません。それでも4パーティー(25名)は時間通り進み、最初の急な長い下り坂に差し掛かった時、トラロープ(60m)を設置して降りることになりました。

何度か足を滑らしながら、全員無事通過することが出来ました。(トラロープは後々の為固定ロープとして設置一さすが高御位山遊会!!!)

苦労した下りの山を振り返ると、タムシバの白い花が山一面に咲いていました。(タムシバはモクレン科、別名ニオイノコブシと言い花には芳香がある。早春に6弁花が咲く)途中、見晴らしの良い岩場からは南西方向に三草山を中心とした素晴らしい眺めを見ることが出来ました。

分岐を過ぎると、緩やかな上り、下りを繰り返して<加東神山-648m>に12:15到着。山頂はガスと風で寒く、早々に昼食と記念写真を撮り12:35下山開始。途中分岐点から下り専用の道を通り無事鴨川の郷公園に帰って来ました。

14:30、高くも無い山でしたが地





元の観光案内紙によると対象は上級者向きでした。最後は近くの温泉<官兵衛の湯>で疲れを癒やし、気分爽快で解散となりました。リーダーさんありがとうございました。



## ■熊野古道を巡るシリーズ 小辺路(伯母子峠越え)

- 日程：4月7日(金)～10日(月)
- 参加者：L 砂川(延) SL 垣内 大谷 河合 高島 田中(重) 田中(由) 藤田 待場 村上

### ● 行動記録：

#### 【4月7日】

大阪難波駅 7:48 発～高野山(9:40 着)9:48 発～千手院バス停(10:00 着)～大滝口 10:35 発～薄峠(11:15 着)11:25 発～大滝集落(12:25 着)12:50 発～水ヶ峰分岐・野迫川口 13:40 通過～野迫川総合案内所(14:20 着)14:35 発～東屋(15:05 着)15:15 発～大股(16:35 着・泊)

#### 【4月8日】

大股 6:25 発～萱小屋跡(7:25 着)7:40 発～桧峠(8:40 着)8:45 発～伯母子峠(9:40 着)10:00 発～上西家跡(10:50 着)11:00 発～水ヶ元茶屋跡(12:00 着)12:05 発～侍平屋敷跡(13:20 着)13:25 発～三田谷橋(14:00 着)～三浦口(14:15 着・泊)

#### 【4月9日】

三浦口 6:15 発～三浦峠(8:50 着)9:20 発～出店跡(10:05 着)～矢倉観音堂(11:30 着)11:45 発～西井バス停(12:30 着)～神社 14:10 発～十津川温泉(14:50 着)

#### 【4月10日】

十津川温泉宿 6:10 発～柳本橋 6:30 発～果無集落(7:20 着)7:30 発～天水田(8:05 着)8:25 発～観音堂(10:10 着)10:15 発～果無峠(9:50 着)10:00 発～七色分岐(11:30 着)～矢木尾バス停(12:15 着)～道の駅奥熊野(12:40 着)13:00 発～九鬼ヶ口関所 13:20 発～熊野本宮大社(14:10 着)16:11 発～JR新宮駅(17:12 着)

## ◆◆熊野古道、小辺路で自分と向き合う

## 高島

高野山から熊野本宮大社に至る全長72kmの街道。四日間で約10万歩近く歩いた旅でした。

**1日目** ちょうど菜種梅雨の停滞前線が張り付いており、修行のようでした。本来は田羅間さんも同行する予定だったそうで、田羅間さんの慰霊の山行でもありました。そして、



神仏が宿る場所とされた紀伊山地に、10名の仲間で足を踏み入れました。

高野山の大滝口からろくろ峠、薄峠を越えると大滝集落があり人が住んでいる気配があるような、無いようなすごい地形の所に家がありました。歩き始めから30分がかなり急勾配で、一步一步踏みしめて、無言で前に進みました。かなり汗をかき衣服調整の後は、少し体が楽に歩けるように思いました。1070mの水ヶ峰

を越えると、高野龍神スカイラインのアスファルト。いかに山道の落ち葉や土が、足に優しいかがわかりました。大股まであと何キロ、あと何キロと皆で確認しながら、苦しいアスファルトを進むのみ。1日目の16.8kmが歩けた喜びと雨の量は多かった。

**2日目** 1246mの伯母子峠を越えて三浦口へ。かわらび荘のご夫婦が登山口まで車で送って下さり助かりました。雨はいつこうに止まず、歩き始めから今日も急勾配で、一步一步踏みしめて…。山道には残雪もあり、怖い狭い道もありましたが、心遣いのある山小屋に癒され、ガスに包まれた中、粛々と歩くのみ。伯母子峠での眺望はゼロ。しかし、千年以上も前から人々が祈りを捧げてきた道を、今自分が歩いていると思うと 景色が大事なのではなく、雄大な森が手つかずのまま残されて当時の様子を偲びながら歩けることの喜びで満足な15.9kmでした。

この日は、14時過ぎに農家民宿に入れたので、体の疲れが楽に取れました。いや、時間だけでなく、宿のご夫婦の温かいおもてなしで、疲れが引いたのかもしれない。お料理もお風呂も、部屋着まで用意していただいて感動でした。山行の満足度を高める要素は、宿泊の場合は、宿の方の心遣いがかなりのパーセントを占めることに気がつきました。五百瀬での心尽くしは最高でした。

明日は十津川温泉。谷瀬のつり橋には行かないルートで、胸をなでおろしながら3日も頑張ろう。

## ◆◆三浦峠越～十津川温泉～果無峠越～熊野本宮大社 村上

**3日目** 今日も雨模様です。農家民宿「政所」は、築300年の古民家、格式ある薬医門が印象的でした。三浦口から峠まで標高差700mの登り、神納川に架かる船渡橋を渡り石畳の残る集落を過ぎると、かつて旅籠をしていた吉村家の樹齢500年前後と推定される大杉の防風林がある。三十丁のまろやかな水で一息入れ、檜や杉の木立の中をぬけると雨も一時やみ眼下に重なる山々に雲海がたなびき美しい墨絵のようです。三浦峠に着くころは又も雨。東屋で小雨になるのを待って出発です。

緩やかな下りを黙々と歩き、出店跡から古矢倉跡を過ぎる頃、雨も上がり木々の間に待望の陽が射しました。谷の向こうには今西集落が見えます。西中まで降りる途中、この旅はじめての旅人との出会いはスイス人の3人組のみでした。桜満開の村の神社でバス待ち休憩をして、十津川温泉までのバスの沿線も車窓から桜が綺麗でうっとりしました。



**4日目** 露天風呂の温泉宿に癒され、花曇りの中柳本橋を渡り出発です。果無集落までの急な石畳道は濡れていて滑りやすく気が抜けませんが登った先の果無集落は(日本の里100選)に選ばれた春の美しい花々が咲く山里でした。もうじき枝垂れ桜が満開です。集落を過ぎ30分程で今は一面アセビの花が咲く天水田に着き朝食です。木々の中をひたすら登って行くと果無峠に出ました。枝払いのされた木々にガスがかかり幻想的です。観音石



仏の表情を眺め、数を数えながら淡々と下り、矢木尾バス停近くで雨具着用、道の駅のベンチで昼食です。中辺路との合流地点である三軒茶屋跡から九鬼ヶ口関所を抜けて石畳の道を熊野本宮大社へ到着。思い思いに大社に詣でゆっくりとカフェでコーヒーを飲み、皆さん4日間歩き通した満足の笑顔です。祈りの道は忍耐の道でした。